

令和5年度当初のごあいさつ

～ 中学生に伝えたい三国丘高校の3つの魅力 ～



大阪府立三国丘高等学校
校長 藤井 光正

校長の藤井です。

令和4年4月に着任し、1年が過ぎました。

この間に見つけた三国丘高校の魅力を3つお伝えします。

1つめは、母校愛の深さです。

先日、あるエピソードを聴いて感動しました。女子バスケットボール部の話です。

女子バスケットボール部は一時期部員数がゼロになり、存続の危機に陥りました。

何とか新入部員を確保し8人まで回復しましたが、部内でゲーム形式の練習をするには2名足りません。

実戦的な練習ができず、不安を抱えたまま公式戦を迎えようとしていました。

そんな状況を見かねた顧問がSNSを通じて同部のOGに助けを求めたところ、5人のOGが大会直前の練習に参加してくれることになりました。

中には、すでに社会人となり多忙を極めている人もいましたが、OGとして部の窮状は見過ごせないと駆けつけてくれました。

その直後にあった公式戦、部員たちは先輩方の思いを胸に戦い、3年ぶりに勝利することができたそうです。

三国丘高校の部活動入部率は毎年95%を超えています。

本年度は新入生の入部率が100%を超えました。(兼部も多くなっています)

多くのクラブが活発に活動する中、女子バスケットボール部の部員たちは少なからず肩身の狭い思いをしてきたに違いありません。

卒業生たちは、そんな後輩たちのことをずっと気にかけていたのだと思います。後輩を妹や弟のように気遣い、母校を家族のように思える三丘生は三国丘高校の誇りです。

2 つめは遅しさです。

今からお伝えするエピソードが示しているのは、自分の将来を描く力の遅しさです。

先般、本校生徒と子どもたちが触れあうイベントを開催しました。

イベントを提案してくださったのは、本校の近くにある総合病院の小児科の医師です。

ご自身が診察している小学生とその保護者に声を掛け、三国丘高校で三丘生と小学生が2時間自由に遊ぶという企画を考えてくださいました。

早速、参加生徒の募集をしたところ、20人を超える生徒が応募しました。

その日が来ました。朝から良い天気。心地良い風が吹いていました。

天気とは裏腹に、私は初挑戦の企画に少なからず不安を覚えていました。初対面の小学生を飽きさせないように2時間も過ごせるのか…という不安です。

が、何もかも杞憂でした。終わってみれば、イベントは大成功！参加してくれた子どもたちは大満足で家路につきました。

私がびっくりしたのはその後のことです。

小児科の医師になる夢を持つ一人の生徒が、ある人をつかまえて質問をしていたのです。その眼差しはまさに真剣そのものでした。

質問を受けてくれていたのは、この日のイベントにボランティアスタッフとして参加してくれていた大阪公立大学医学部医学科の4回生でした。

さらにびっくりしたのは、イベント終了後の座談会のシーンです。

小児科医師の他に研修医が2名と件の学生が1名参加してくれていたのですが、三丘生の質問が止まりません。

医師をめざす生徒だけではなく、看護師や教員をめざす生徒も、自分の将来像を描きながら非常に具体的な質問を次から次へとぶつけていました。

私は、この光景に三丘生の遅しさを見ました。

夢を夢で終わらせるのではなく、積極的に働きかけることにより輪郭を持つ将来像を描き出す力があると感じました。この力は、遅しいという表現がぴったりだと思いました。

直近の令和5年度大学入試では、現役3人を含む19人が国公立大学医学部医学科に合格しました。これは近年にない優れた実績です。

この数字はほんの一例です。多くの三丘生が夢実現への一步を踏み出しています。

そして、その背景には逞しさがあり、これこそが三丘生の魅力だと私は思っています。

3つめは、学力の高さです。

ここで言う学力とは、テストで点数を取る力のことではありません。

答のない問いに協働して立ち向かう力とか、社会を変えるために自分たちができるところを考え続ける力も含めた総合的な学力のことです。

レルカップを例に挙げてお話しします。

レルカップは75期生の探究学習の授業で編成されたグループの名前です。

彼女ら7人は、お弁当箱の中でおかずを仕切るために使われているカップに着目し、SDGsの観点からこれを改良できないかと考えました。

辿り着いた結論は、食べられる材料でカップをつくることでした。

グループ名であるレルカップの由来は、食べら“れるカップ”から来ています。

ビジネスプランを競うコンテストでこの探究活動の成果を発表したレルカップは、日本代表となり世界大会に進出しました。結果は優秀賞。世界一に輝いた瞬間でした。

レルカップのメンバーは、探究活動を完成させた後も英語でのプレゼンテーションを完璧に仕上げるために相当の時間を費やしました。

大学受験が迫る高3の夏です。勉強以外のことに膨大な時間を割かれることへの不安がどれほど大きかったか、想像に難くないと思います。しかし、彼女らはやり切りました。

これだけでも十分尊敬できる話ですが、実はこの話には後日談があります。

年度末が近づいたころ、私は75期生の1人が現役で東京大学に合格したという知らせを受けました。

よく頑張ったなあと思っていたら、その1人と言うのがレルカップのメンバーだったので。世界大会優秀賞の報告に来てくれた時、校長室で見せてくれた彼女たちの笑顔と笑い声が脳裏に蘇りました。

もうおわかりかと思いますが、私は、レルカップが凄いと言っているわけでも東京大学に合格したから偉いと言っているわけでもありません。

レルカップの生徒たちがその経験から得たものは測り知れない価値を持っていると言ひ

たいのです。

中学生が高校を選ぶ際に具体的なモノサシが必要だとすれば、それは、テストで点数を取るための学力だけではなく、総合的な学力をつける仕掛けのある高校かどうかではないでしょうか。

頭をフル回転させ、仲間と協働して何かを成し遂げる経験から自分の夢を膨らませ、その夢を叶えることができる大学に進学し、いつの日か夢を叶える…そこまでを見通した教育を提供する学校を真の進学校と呼ぶのだと私は思っています。

本校には、Jリーグ初代チェアマンをつとめた川淵三郎先生の色紙が至る所に飾られています。川淵先生は本校の7期生です。

最後に、その言葉をご紹介してご挨拶にかえます。

「夢があるから強くなる！」

三国丘高校は、これからも、生徒のみなさんにそう信じてもらえる学校であり続けたいと思っています。